

令和6年度
企業局の概要



宮崎県企業局



目 次

1	企業局とは	1
	企業局事業施設位置図	2
2	電気事業	
	事業の概要	3
	発電所の概要	3
	施設の概要	5
	電力料金	23
	事業実績	23
	令和5年度に実施した主な工事等	24
3	工業用水道事業	
	事業の概要	25
	施設の概要	26
	給水料金	26
	事業実績	26
4	地域振興事業	
	事業の概要	27
	施設の概要	27
	利用料金	28
	事業実績	28
5	県の施策や地域への貢献	
	緑のダム造成事業	29
	再生可能エネルギーへの取組	30
	1階ロビー・県電ホール的一般開放	31
	河川環境保全への取組	31
	環境にやさしい街路灯の設置	31
	市町村等への支援	32
	関係市町村への地域貢献	32
	「来て！見て！体感」企業局施設見学ツアー	33
	企業局施設見学受入	33
6	令和6年度予算の概要	
	当初予算額	34
	主要事業の概要	35
7	企業局の組織	
	組織図	37
	企業局の主な事務分掌	38
8	企業局のあゆみ	39
	用語解説	42

1 企業局とは

地方公営企業

宮崎県企業局は、宮崎県が経営する地方公営企業です。

昭和13年に県営電気建設部として発足して以来、幾度かの組織の改編を経て、昭和30年に企業局として再発足しました。



宮崎県企業局庁舎

地方公営企業とは、地域住民の福祉の増進を目的として、地方公共団体が経営する企業のことをいい、水道事業や工業用水道事業、電気事業など、さまざまな事業を行っています。

一般の行政機関の財源が税金であるのに対し、地方公営企業の財源は、それぞれの事業で得られた料金収入となっており、経営に当たっては、独立採算制の下で、常に企業としての経済性を発揮することが求められています。

宮崎県企業局が行っている事業

宮崎県企業局では、現在、水力発電を主とした電気事業、細島工業団地に工業用水を供給する工業用水道事業、一ツ瀬川県民スポーツレクリエーション施設を運営する地域振興事業の3つの事業を行っています。

宮崎県企業局経営ビジョン

令和2年3月に、将来にわたって持続可能な経営基盤を確立するための経営指針となる新たな宮崎県企業局経営ビジョン（計画期間：令和2年度～令和11年度）を策定しました。

宮崎県企業局は、この経営ビジョンに基づき、事業を推進しています。

めざす姿

本県の豊かな水資源と河川環境を活用し、地域社会の持続的な発展と県民福祉の増進に貢献する公営企業

電気事業

老朽化した発電所の計画的な更新と電力の安定供給を通じて、持続可能な社会構築や経済の振興、県民の福祉増進に貢献する。

工業用水道事業

工業用水の低廉な料金を維持しつつ、施設の健全性を保ちながら、県北地域の産業振興を支える。

地域振興事業

河川敷ゴルフ場の特色を生かし、県民誰もが快適にプレイしやすい環境を提供することにより、県民の健康づくり・生きがいくくりと地域の振興に寄与する。

※宮崎県企業局経営ビジョンの一部見直し（令和5年3月31日付け）

発電所の大規模改良事業に係る工事費の増等が生じたことから、電気事業の「投資・財政計画」を見直し

企業局事業施設位置図

大分県



- 凡例
- 青文字：電気事業 関連施設
 - 緑文字：工業用水道事業 関連施設
 - 赤文字：地域振興事業 関連施設

2 電気事業



けんでんくん

事業の概要

本県では、大正7年12月の県議会において水力発電事業経営の建議がなされて以来、全国有数の豊富な水資源の活用を県政の重要課題として位置づけ、水力開発を進めてきました。

昭和13年に県営電気建設部として発足して以来、河川管理者の委託を受けて、小丸川、綾川、三財川、大淀川、祝子川で6つの河川総合開発事業を実施しており、これらの事業を通して、電気の安定供給や下流域市町村の水害防止、かんがい用水確保による農業の振興など、地域の発展に大きく貢献しています。

現在、企業局が運営している14発電所の最大出力は、合計15万9,399kWで、全国公営電気事業者の中で水力発電は第3位の規模となっております。

発電した電気は、九州電力株式会社及び九州電力送配電株式会社へ売電しており、電力自由化に対応するため、経営の効率化に努めているところです。

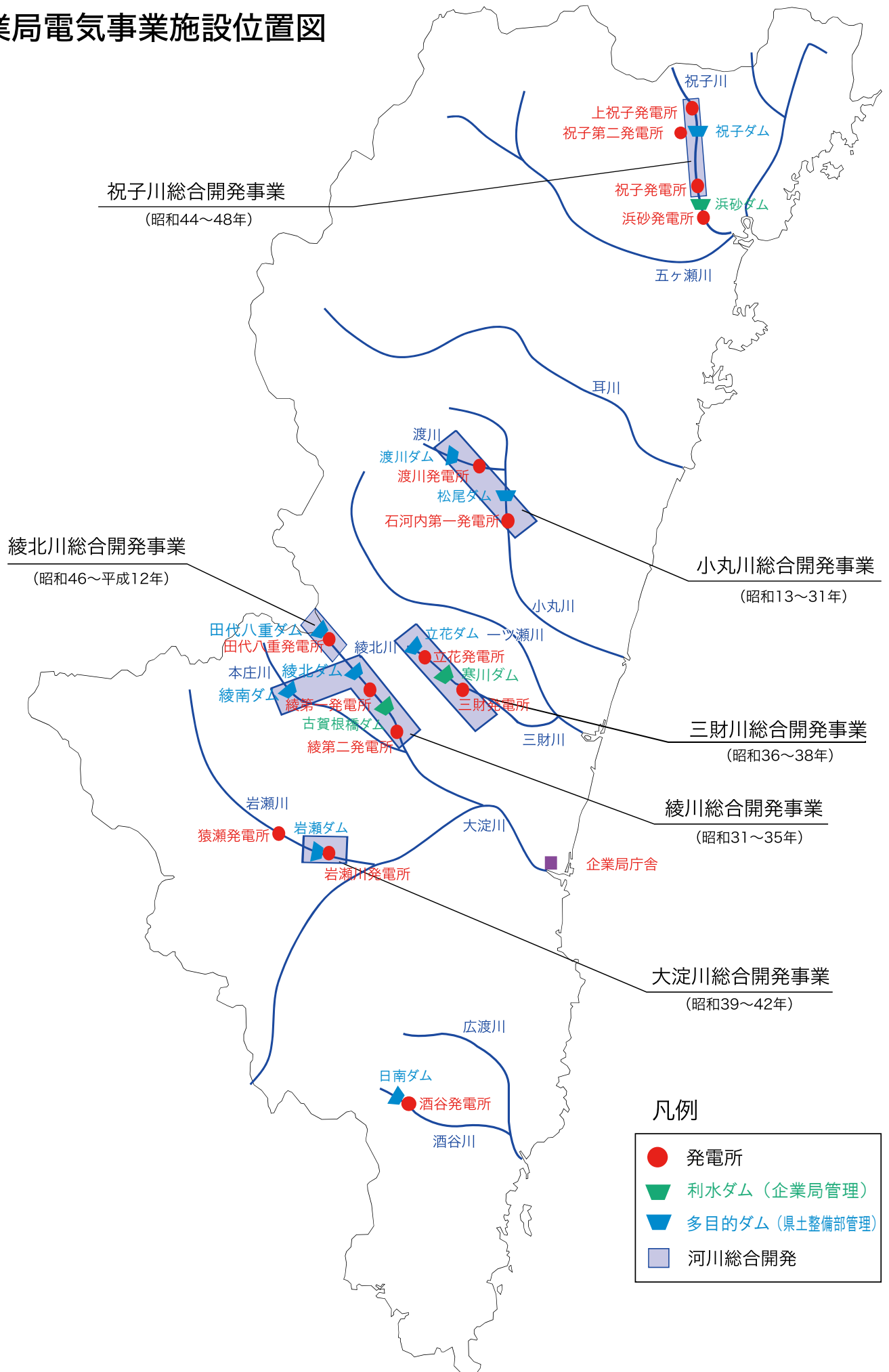
また、平成18年度から発電事業に関係するダム上流域を対象に、未植栽地を水源かん養機能の高い森林として整備し、安定的な電力の供給に資する「緑のダム造成事業」を実施しているほか、太陽光発電やマイクロ水力発電など、環境に優しい再生可能エネルギーの開発にも積極的に取り組んでいます。

発電所の概要

発電所名		所在市町村	発電開始年月	最大出力 (kW)	供給電力量 (千kWh)		
いし	かわ	うち	だい	いち			
石	河	内	第	一			
		木城町	昭和25年5月	22,200	75,618		
と		かわ					
渡		川	日向市	昭和30年4月	12,344	39,397	
あや	み	き					
	な	機	小林市	昭和33年4月	25,000	90,527	
	あ	き	//	昭和35年5月			
や	機	//	平成27年6月				
綾第一	綾北ダム発電設備	//					
あや	だい	に					
綾	第	二	綾町	昭和34年3月	28,000	114,000	
た	しろ	ば	え				
田	代	八	重	小林市	平成12年4月	5,800	19,014
たち		はな		西都市	昭和38年2月	13,400	26,793
立				//	昭和38年7月	8,800	25,896
さん		さい					
三		財	//		昭和38年7月	8,800	25,896
い	せ	かわ					
岩	瀬	川	都城市	昭和42年7月	18,600	58,029	
さ		せ					
猿		瀬	高原町	平成16年4月	1,700	7,022	
ほう		り					
祝		子	延岡市	昭和48年4月	17,300	48,769	
か	ほう	り					
上	祝	子	//	昭和48年9月	3,300	8,346	
は		ご					
浜		砂	//	平成4年4月	2,400	7,352	
ほう	り	だい	に				
祝	子	第	二	//	平成24年4月	35	137
さ		た					
酒		谷	日南市	平成28年10月	520	2,344	
合		計		159,399	523,244		

※綾第二発電所は、大規模改良工事のため停止中

企業局電気事業施設位置図



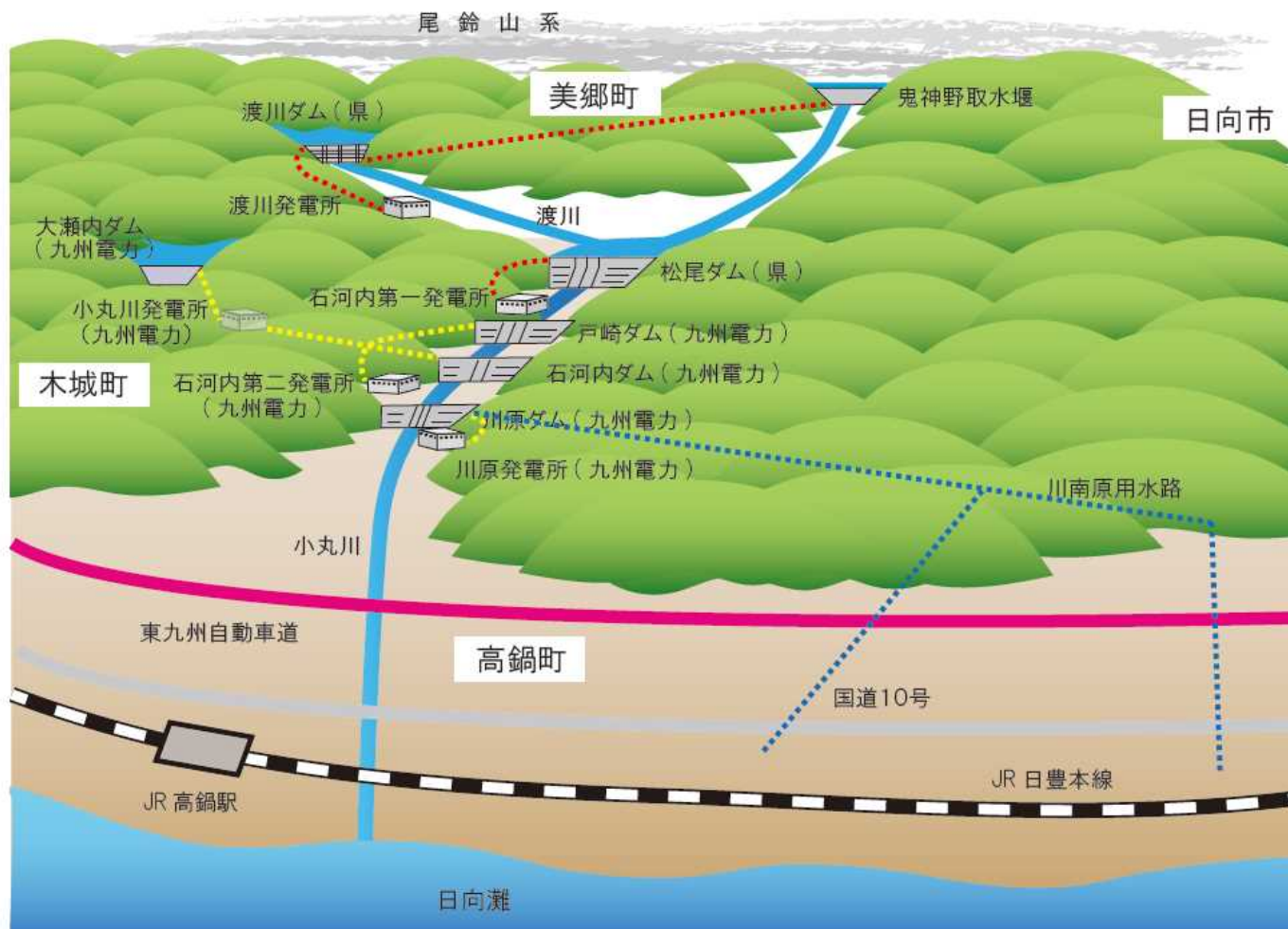
施設の概要

石河内第一発電所・渡川発電所（小丸川水系）

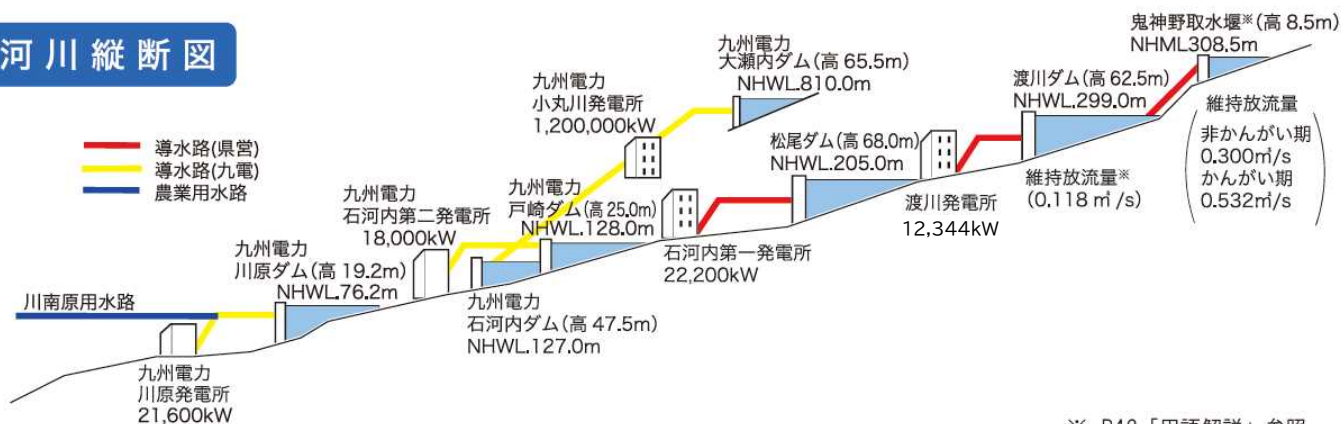
石河内第一発電所及び渡川発電所は、小丸川河水統制事業として発足した小丸川総合開発事業（昭13～昭31）により建設されました。

小丸川河水統制事業は、発電のほか、治水及びかんがい用水の確保を目的として実施されました。

なお、この事業で完成していた川原発電所（昭15）と石河内第二発電所（昭18）は、当時の電力管理法により日本発送電株式会社（当時）に出資させられ、現在は、九州電力株式会社の所有となっています。



河川縦断図



※ P42「用語解説」参照

石河内第一発電所

小丸川にある松尾ダムから取水するダム水路式発電所[※]で、昭和25年に運転を開始した、企業局では最も古い発電所です。平成12年度から14年度にかけて大規模改良工事を実施し、最大出力が21,200kWから22,200kWに増加しました。

松尾ダムは、発電、治水及びかんがいを目的とした多目的ダム[※]です。



石河内第一発電所

所在地		児湯郡木城町大字石河内
最大出力		22,200kW
最大使用水量		36.0 m ³ /s
最大有効落差		70.6m
ダム	名称	松尾ダム
貯水池	有効貯水容量	33,699,000 m ³
水車	形式×台数	立軸フランシス×2
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×2



松尾ダム

渡川発電所

小丸川支川渡川にある渡川ダムから取水するダム水路式発電所で、昭和30年に運転を開始しました。

平成27年度から令和5年度にかけて大規模改良工事を実施し、最大出力が12,000kWから12,344kWに増加しました。

渡川ダムは、発電、治水及びかんがいを目的とした多目的ダムです。



渡川発電所

所在地		日向市東郷町下三ヶ
最大出力		12,344kW
最大使用水量		16.0 m ³ /s
最大有効落差		90.7m
ダム	名称	渡川ダム
貯水池	有効貯水容量	29,900,000 m ³
水車	形式×台数	立軸フランシス×2
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×2



渡川ダム

※P42「用語解説」参照

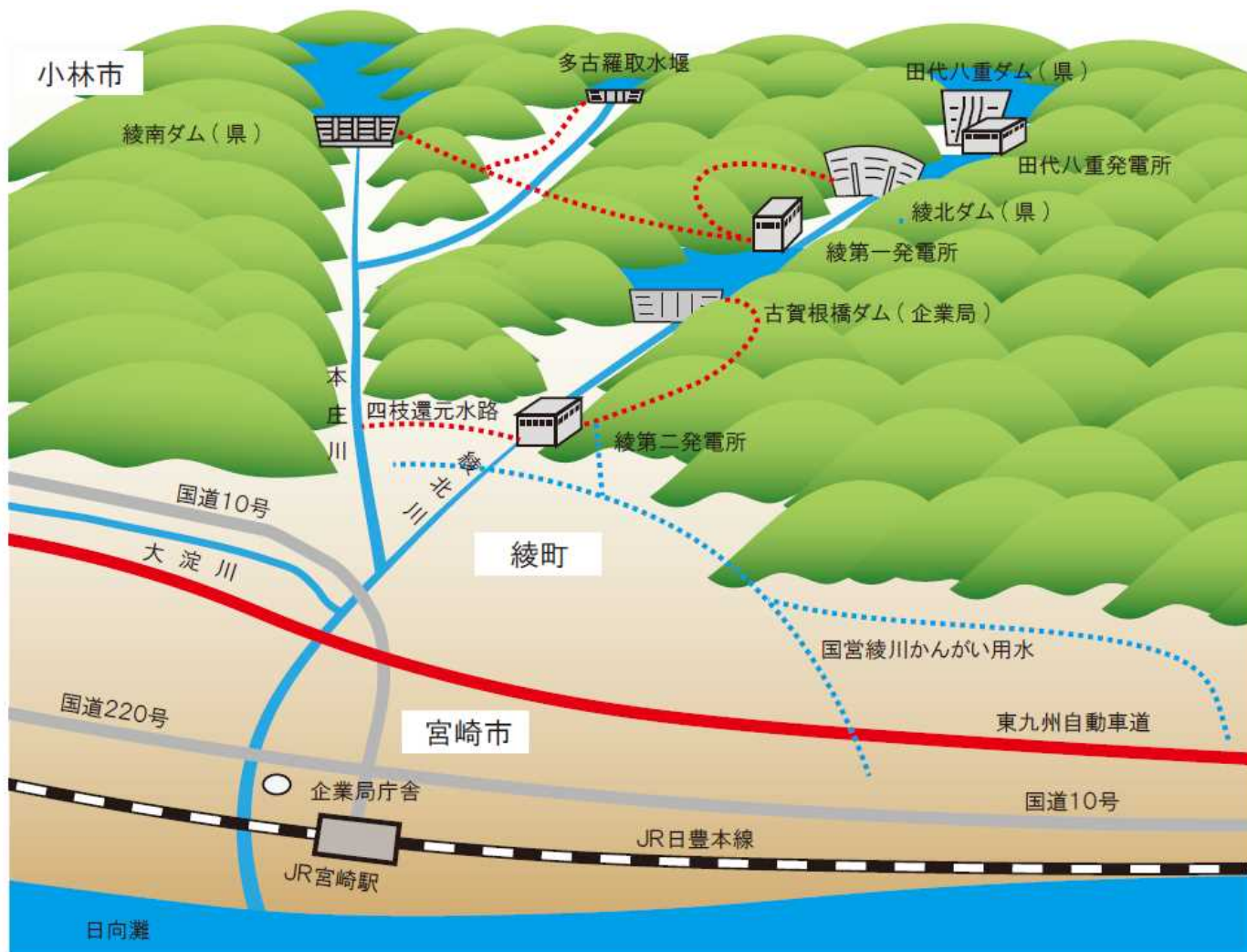
綾第一発電所・綾第二発電所・田代八重発電所（大淀川水系）

綾第一発電所及び綾第二発電所は、綾川総合開発事業（昭31～昭35）により、また、田代八重発電所は、綾北川総合開発事業（昭46～平12）により建設されました。

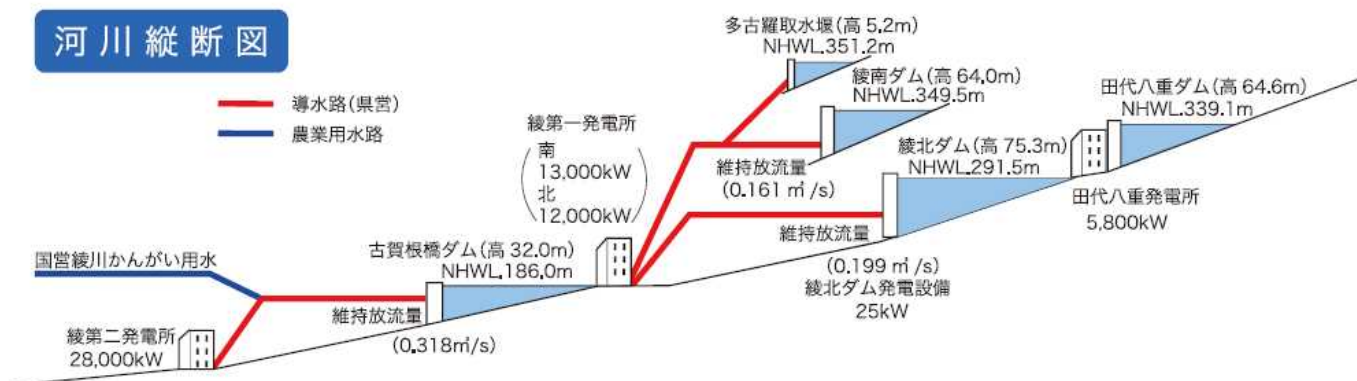
綾川総合開発事業は、発電のほか、治水、かんがい用水の確保を目的として実施されました。

また、綾北川総合開発事業は、発電のほか、治水、かんがい用水及び水道用水の確保を目的として実施されました。

これら3つの発電所の年間供給電力量は、企業局全体の4割を占めており、電気事業の柱となっています。



河川縦断図



綾第一発電所

本庄川にある綾南ダムから取水する南機と、綾北川にある綾北ダムから取水する北機を1つの建屋に納めたダム水路式発電所です。南機は昭和33年、北機は昭和35年に運転を開始しています。

綾北ダム発電設備は、綾北ダムの河川維持放流水※を利用したマイクロ水力発電設備で、平成27年6月に運転を開始しました。

綾南ダム・綾北ダムは、発電と治水を目的とした多目的ダムで、綾北ダムは全国の公営電気事業者で最初に建設されたアーチ式コンクリートダム※です。

また、綾北ダムには濁水対策として選択取水設備※が設置されています。



綾第一発電所



綾南ダム



綾北ダム



綾北ダム選択取水設備 (写真左)

所在地		小林市須木下田
最大出力		南機 13,000kW 北機 12,000kW
最大使用水量		南機 10.0 m ³ /s 北機 14.0 m ³ /s
最大有効落差		南機 151.8m 北機 97.6m
貯水池	有効貯水容量	綾南ダム 33,900,000 m ³ 綾北ダム 18,800,000 m ³
水車	形式×台数	立軸フランシス×2
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×2

綾北ダム発電設備

所在地		小林市須木柚園
最大出力		25kW
最大使用水量		0.221 m ³ /s
水車	形式×台数	ポンプ逆転水車×1
発電機	形式×台数	誘導発電機×1

※P42「用語解説」参照

綾第二発電所

綾第一発電所の下流にある古賀根橋ダムから取水するダム水路式発電所で昭和34年に運転を開始しました。

企業局の発電所の中で出力と年間発電量が最も大きく、河川環境を維持するため24時間連続で発電しています。

古賀根橋ダムは、発電とかんがいを目的とした利水ダム※です。

令和元年度から9年度にかけて、大規模改修を施工しています。



綾第二発電所



綾第二発電所発電機

所在地		東諸県郡綾町大字入野
最大出力		28,000kW
最大使用水量		26.0 m ³ /s
最大有効落差		126.3m
ダム	名称	古賀根橋ダム
貯水池	有効貯水容量	416,000 m ³
水車	形式×台数	立軸フランシス×2
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×2



古賀根橋ダム

※P42「用語解説」参照

田代八重発電所

綾北川上流にある田代八重ダムの直下にあるダム式発電所※で、平成12年に運転を開始しています。水車等の操作機構の電動化や空気式の採用など、設備の簡素化が図られています。

田代八重ダムは、発電のほか、治水、かんがい及び水道水の確保を目的とした多目的ダムです。また、濁水対策として選択取水設備が設置されています。



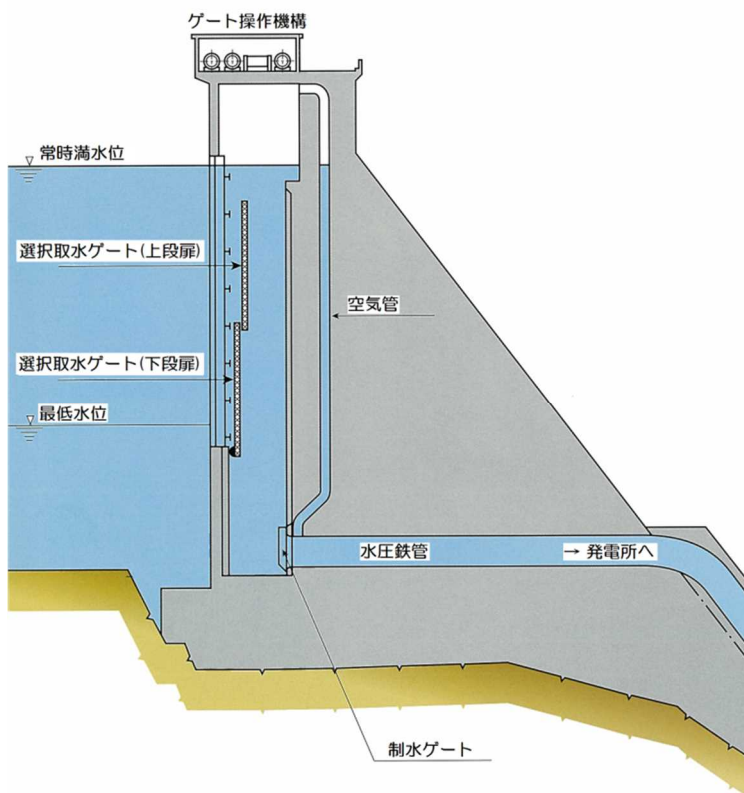
田代八重発電所



田代八重ダム

所在地		小林市須木下田
最大出力		5,800kW
最大使用水量		14.0 m ³ /s
最大有効落差		51.3m
ダム	名称	田代八重ダム
貯水池	有効貯水容量	14,270,000 m ³
水車	形式×台数	立軸フランシス×1
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×1

田代八重ダム選択取水設備断面図

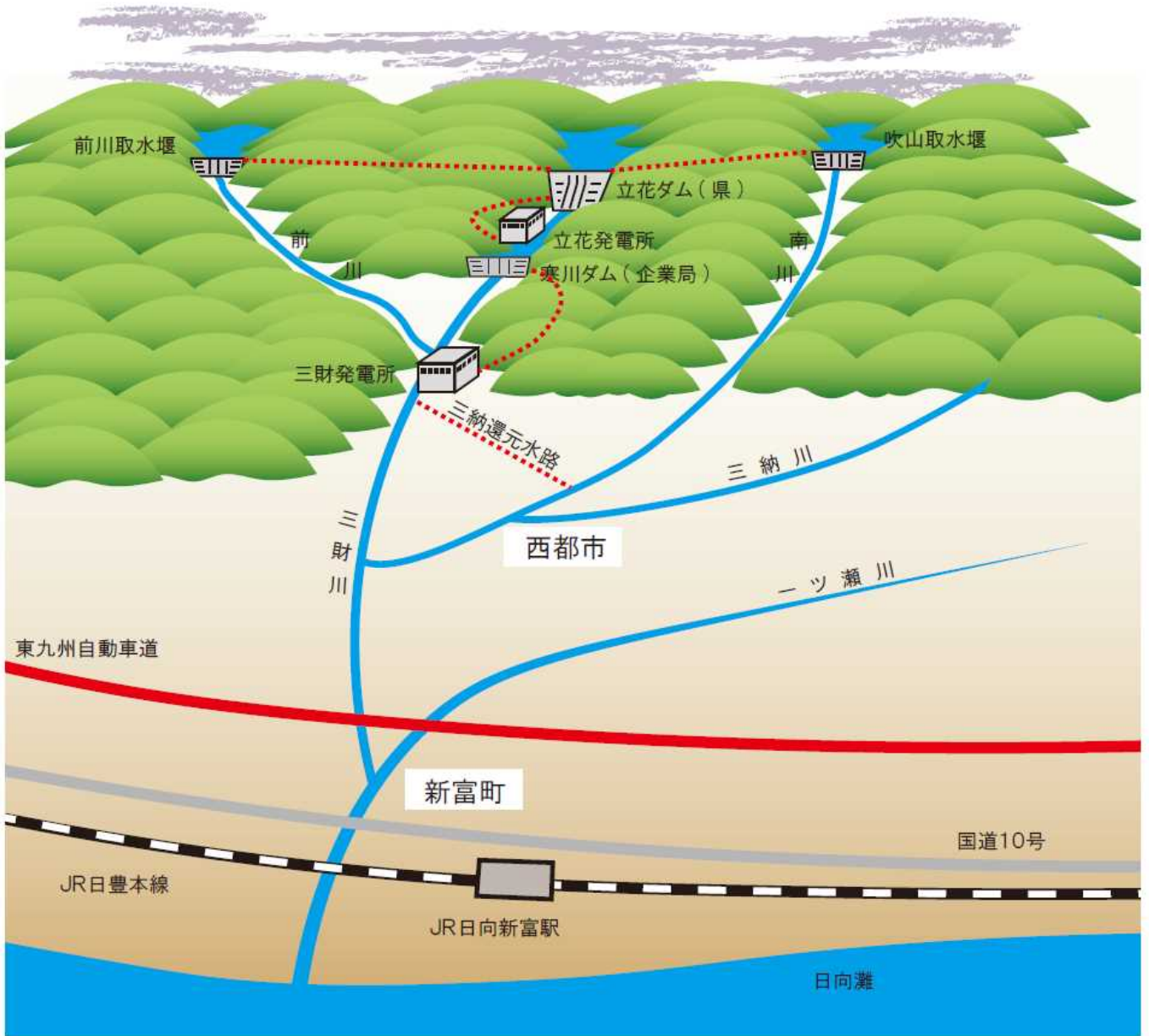


田代八重ダム選択取水設備

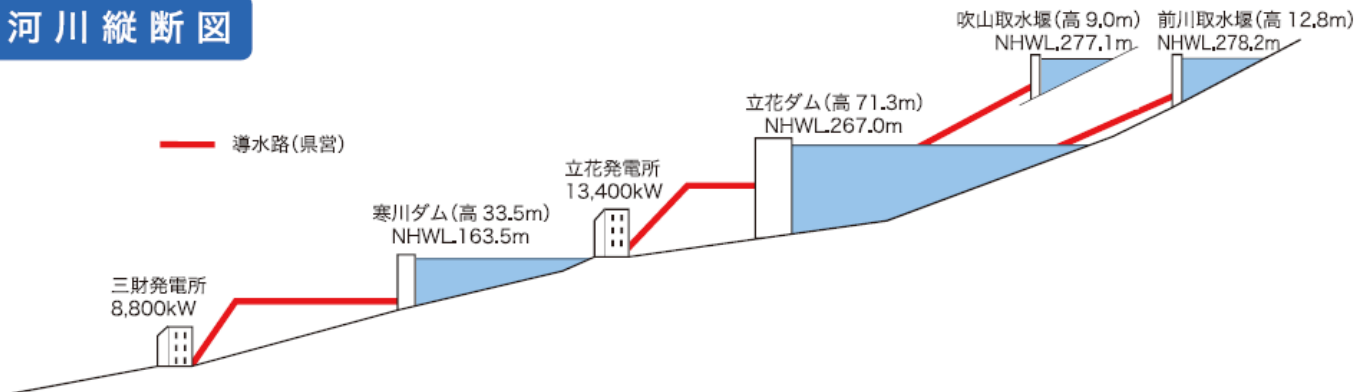
※P42「用語解説」参照

立花発電所・三財発電所（一ツ瀬川水系）

立花発電所及び三財発電所は、三財川総合開発事業（昭36～昭38）により建設されました。
三財川総合開発事業は、発電のほか、治水及びかんがい用水の確保を目的として実施されました。



河川縦断図



立花発電所

三財川にある立花ダムから取水するダム水路式発電所で、昭和38年に運転を開始しました。

立花ダムは、発電、治水及びかんがいを目的とした多目的ダムです。

所在地		西都市大字寒川
最大出力		13,400kW
最大使用水量		16.0 m ³ /s
最大有効落差		99.9m
ダム	名称	立花ダム
貯水池	有効貯水容量	8,480,000 m ³
水車	形式×台数	立軸フランシス×1
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×1



立花発電所



立花ダム

三財発電所

立花発電所の下流にある寒川ダムから取水するダム水路式発電所で、昭和38年に運転を開始しました。

横軸二輪両掛型フランシス水車を採用しており、河川環境を維持するために24時間連続で発電しています。

平成10年度に、水車発電機の改良工事を実施し、最大出力が8,600kWから8,800kWに増加しました。

寒川ダムは、発電専用の利水ダムです。

所在地		西都市大字上三財
最大出力		8,800kW
最大使用水量		10.0 m ³ /s
最大有効落差		103.0m
ダム	名称	寒川ダム
貯水池	有効貯水容量	372,000 m ³
水車	形式×台数	横軸二輪両掛型フランシス×1
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×1



三財発電所



寒川ダム

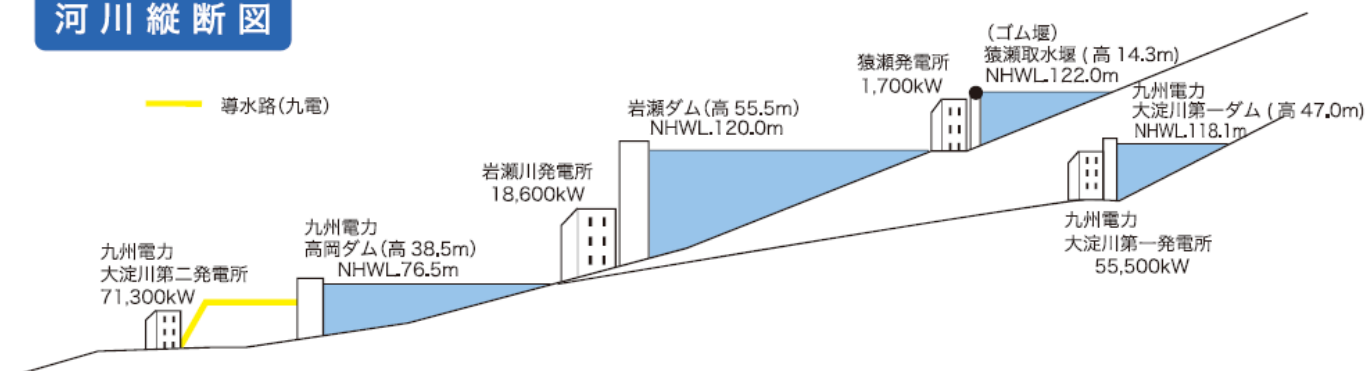
岩瀬川発電所・猿瀬発電所（大淀川水系）

岩瀬川発電所は、大淀川総合開発事業（昭39～昭42）により、また、猿瀬発電所は、猿瀬発電所建設事業（平12～平16）により建設されました。

大淀川総合開発事業は、発電のほか、治水を目的として実施されました。



河川縦断図



岩瀬川発電所

大淀川支流岩瀬川の岩瀬ダムの直下にあるダム式発電所です。最大使用水量は毎秒50m³、最大出力は18,600kWと1台では企業局で最も大きい発電機となっています。

岩瀬ダムは、発電と治水を目的とした多目的ダムで、貯水池の容量は県営ダムの中で最大となっています。



岩瀬川発電所



岩瀬ダム

所在地		都城市高崎町笛水
最大出力		18,600kW
最大使用水量		50.0 m ³ /s
最大有効落差		43.7m
ダム	名称	岩瀬ダム
貯水池	有効貯水容量	41,000,000 m ³
水車	形式×台数	立軸カプラン×1
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×1

猿瀬発電所

大淀川総合開発事業に伴い廃止された九州電力の発電所の堰堤を利用して再開発したダム式発電所（流れ込み式[※]）です。

コンクリート堰堤をゴム引布製起伏堰[※]でかさ上げすることにより、最大出力と発電量の増加を図っています。



猿瀬発電所

所在地		西諸県郡高原町大字西麓
最大出力		1,700kW
最大使用水量		22.0 m ³ /s
最大有効落差		9.6m
ダム	名称	猿瀬取水堰
貯水池	有効貯水容量	—
水車	形式×台数	横軸円筒可動羽根プロペラ×1
発電機	形式×台数	三相交流誘導発電機×1



ゴム引布製起伏堰

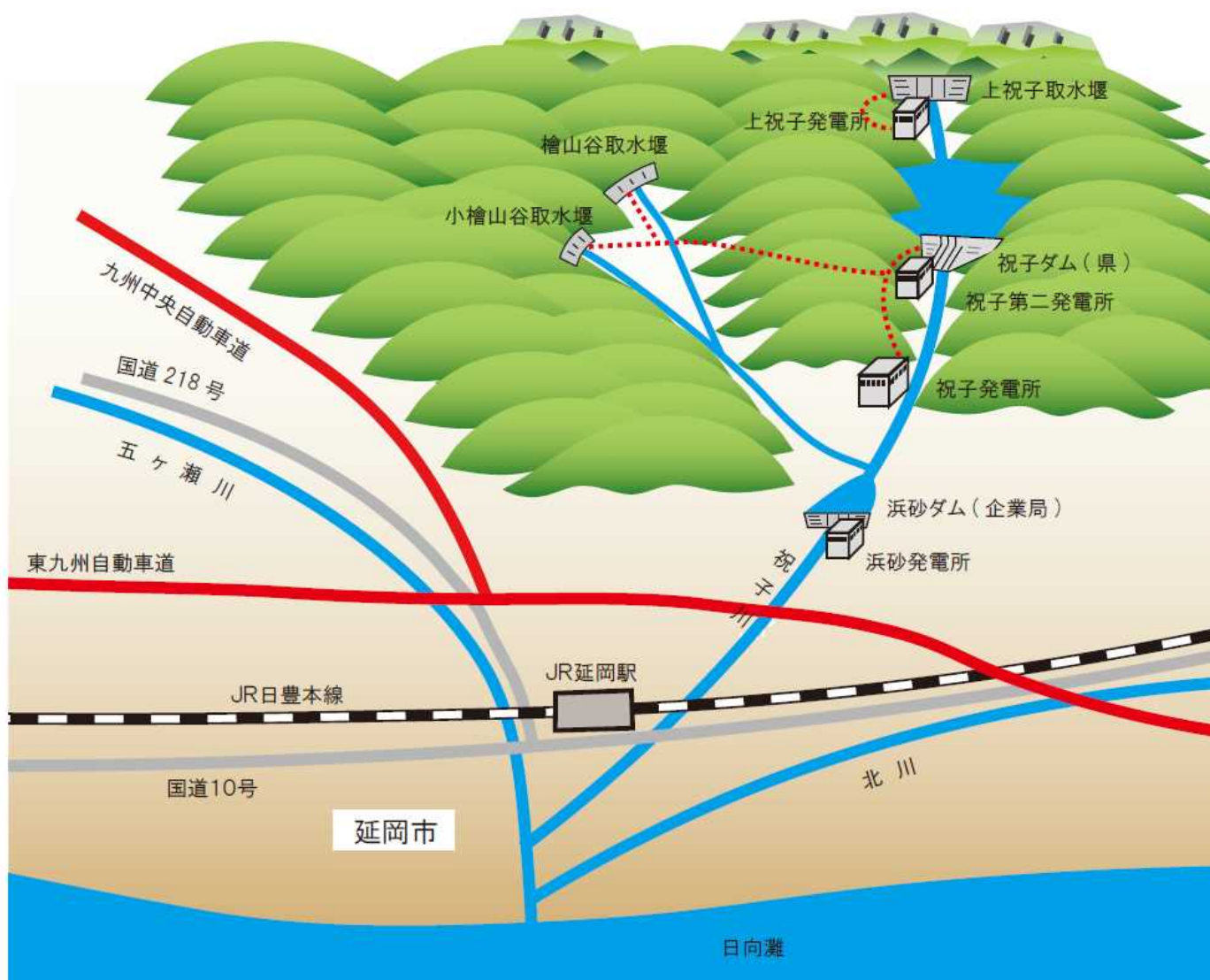
※P42「用語解説」参照

祝子発電所・上祝子発電所・浜砂発電所・祝子第二発電所（五ヶ瀬川水系）

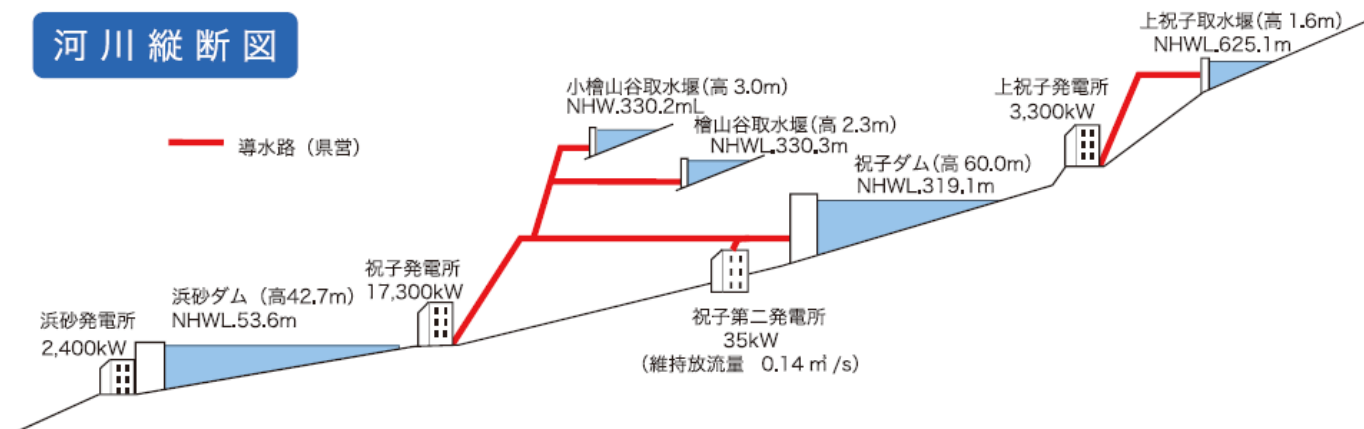
祝子発電所及び上祝子発電所は、祝子川総合開発事業（昭44～昭48）により、浜砂発電所は浜砂ダム・発電所建設事業（昭58～平4）により建設されました。

祝子川総合開発事業は、発電のほか、治水、かんがい及び工業用水の確保を目的として実施されました。

祝子第二発電所は、祝子ダム河川維持放流水の未利用エネルギーの有効活用を目的として建設されました（平22～平23）。



河川縦断図



祝子発電所

祝子川にある祝子ダムから取水するダム水路式発電所で、昭和48年に運転を開始しました。急峻な地形を生かし、企業局の中では、最も有効落差が大きく、最大251.7メートルの高落差を利用して効率的な発電を行っています。

祝子ダムは、発電、治水、かんがい及び工業用水の確保を目的とした多目的ダムです。

平成26～27年度に改良工事を実施し、最大出力が16,800kWから17,300kWに増加しました。



祝子発電所



祝子ダム

所在地		延岡市檜山
最大出力		17,300kW
最大使用水量		8.0 m ³ /s
最大有効落差		251.7m
ダム	名称	祝子ダム
貯水池	有効貯水容量	4,864,000 m ³
水車	形式×台数	立軸フランシス×1
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×1

上祝子発電所

祝子川総合開発事業に伴い廃止された九州電力の発電所の水車発電機を祝子川の上流に移設して建設した発電所です。企業局の発電所では唯一の水路式発電所[※]（流れ込み式）となっています。

機器の老朽化に伴い、平成7～8年度に大規模改良を実施し、最大出力が3,200kWから3,300kWに増加しました。



上祝子発電所

所在地		延岡市北川町川内名
最大出力		3,300kW
最大使用水量		2.3 m ³ /s
最大有効落差		180.5m
ダム	名称	上祝子取水堰
貯水池	有効貯水容量	—
水車	形式×台数	横軸単輪2射バルトン×2
発電機	形式×台数	三相交流誘導発電機×1



上祝子取水設備

※P42「用語解説」参照

浜砂発電所

祝子発電所の下流、浜砂ダムの直下にあるダム式発電所です。下流の水位変動を抑えるために24時間連続で発電しています。

浜砂ダムは、発電及び工業用水の確保を目的とした利水ダムです。

所在地		延岡市宮長町
最大出力		2,400kW
最大使用水量		12.0 m ³ /s
最大有効落差		26.0m
ダム	名称	浜砂ダム
貯水池	有効貯水容量	918,000 m ³
水車	形式×台数	横軸単輪複流フランシス×2
発電機	形式×台数	三相交流誘導発電機×2



浜砂発電所



浜砂ダム

祝子第二発電所

祝子ダムの河川維持放流水を利用したダム水路式発電所です。平成24年4月に運転を開始しました。

所在地		延岡市北川町川内名
最大出力		35kW
最大使用水量		0.14 m ³ /s
最大有効落差		34.75m
ダム	名称	祝子ダム
貯水池	有効貯水容量	-
水車	形式×台数	横軸前口フランシス×1
発電機	形式×台数	三相交流誘導発電機×1



祝子第二発電所



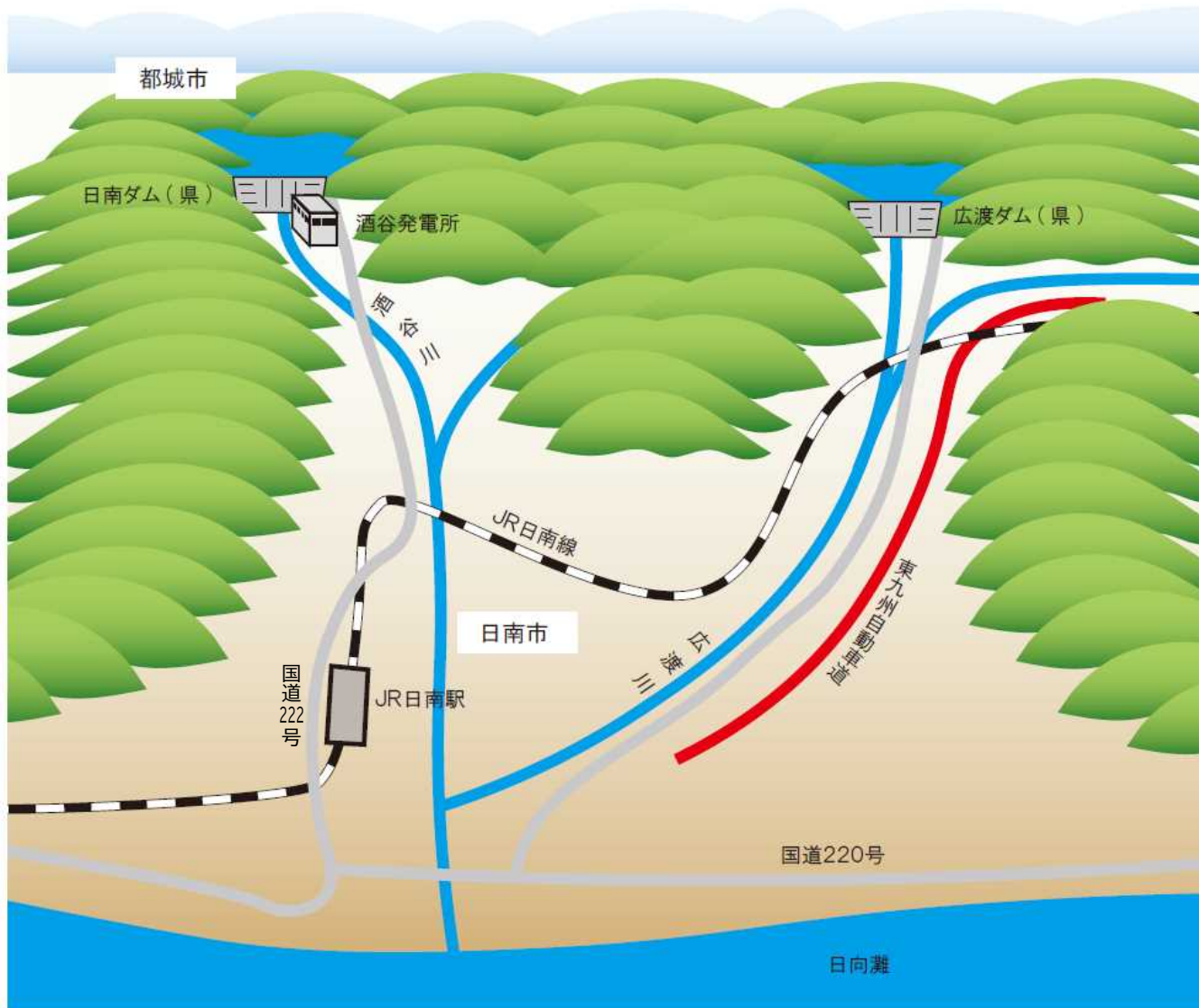
祝子第二発電所水車発電機

酒谷発電所（広渡川水系）

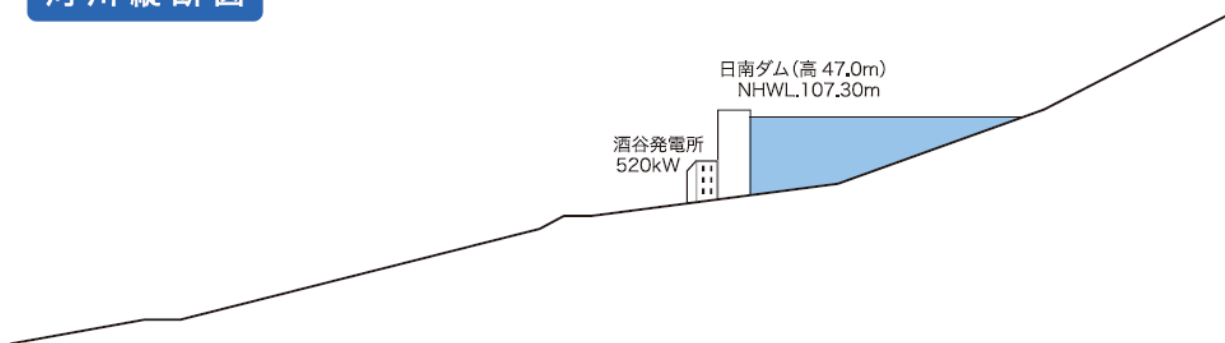
酒谷発電所は、東日本大震災による電力事情の変化を踏まえ、昭和60年に完成した酒谷川の治水ダムである日南ダムを利用した発電所として建設されました。

日南ダムの直下にあるダム式発電所（流れ込み式）で、平成26年度に工事に着手し、平成28年9月に完成、同10月から運転を開始しました。

ダムから放流している未利用の水を有効活用して発電を行うもので、治水ダムを利用した発電所は、県内では初めてとなります。



河川縦断図



酒谷発電所

所在地		日南市酒谷甲
最大出力		520kW
最大使用水量		3.5 m ³ /s
最大有効落差		18.81m
ダム	名称	日南ダム
貯水池	有効貯水容量	4,640,000 m ³
水車	形式×台数	横軸フランシス×1
発電機	形式×台数	三相交流同期発電機×1



日南ダムと酒谷発電所



酒谷発電所水車発電機



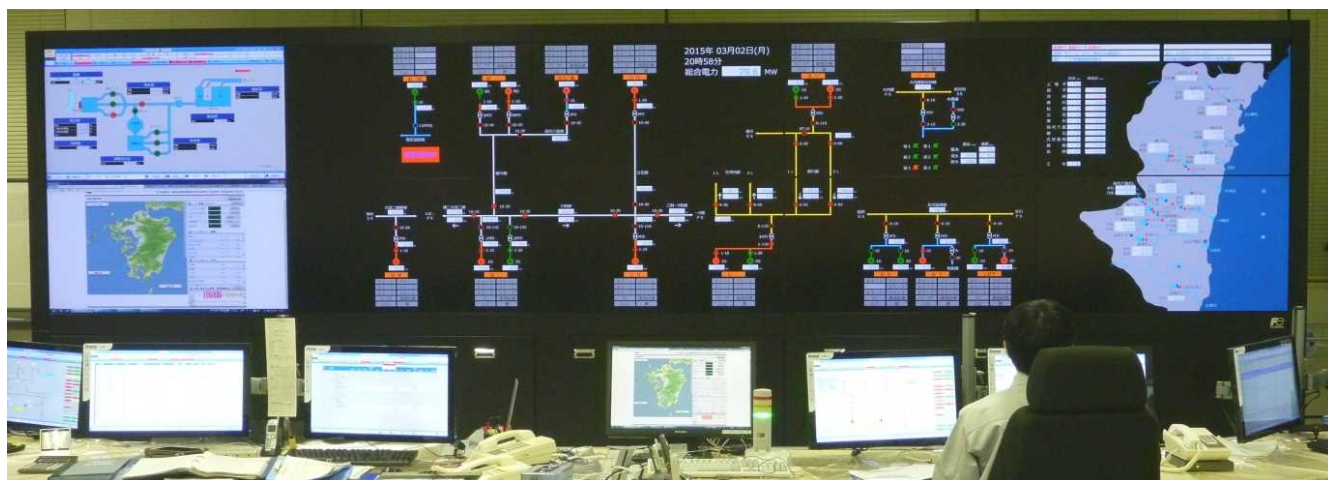
そうせいちゃん

総合制御室

事業経営の集中化・効率化を図ることを目的として、平成5年4月に企業局庁舎内に総合監視制御システムを設置しました。職員が2名ずつ三交替勤務により常駐し、企業局のすべての発電所と工業用水道施設を集中監視制御しています。

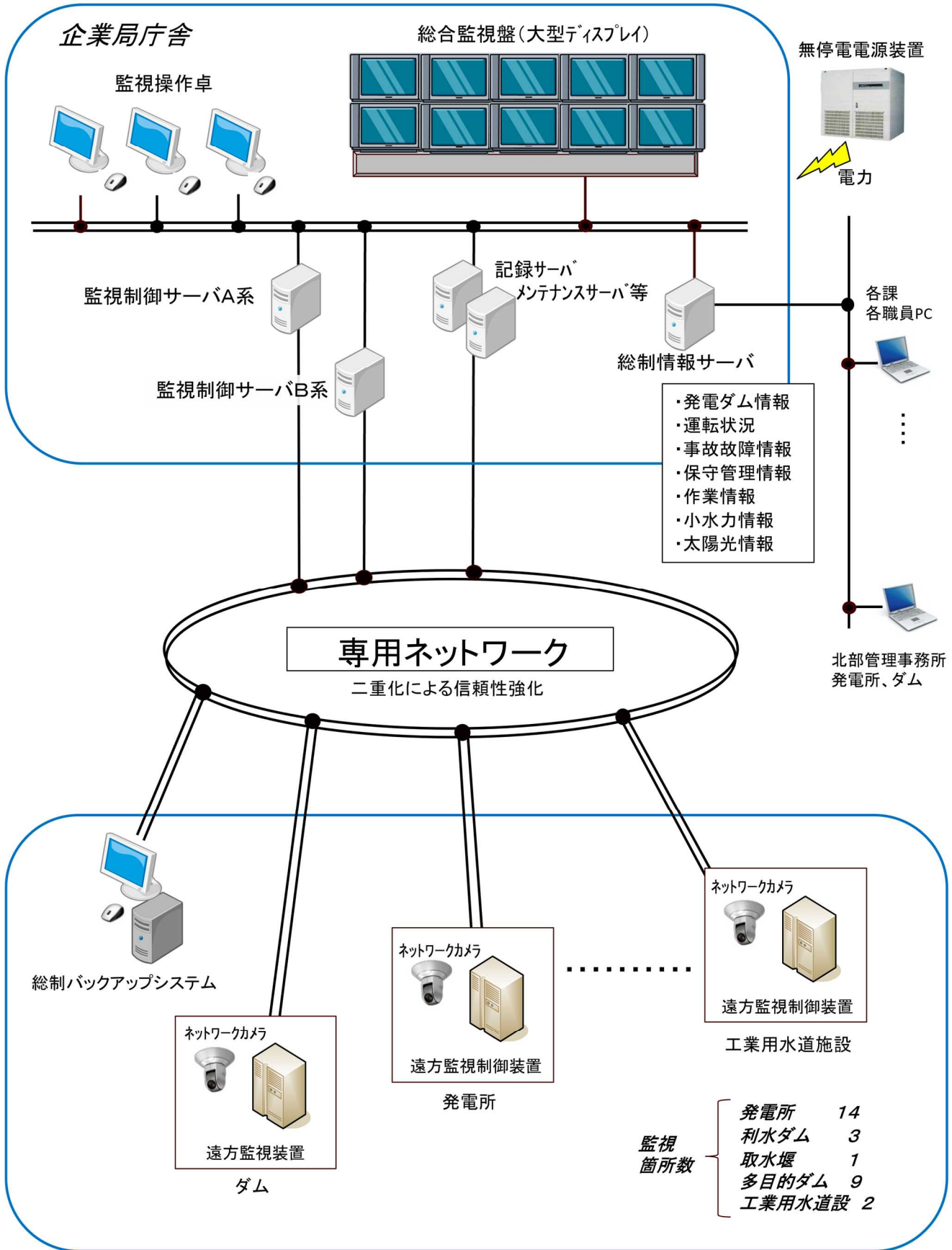
設備の老朽化に伴い、平成25年度から26年度にかけてシステムを一括更新し、平成27年3月から新システムでの運用を開始して、災害対応機能やシステム機能の強化を図りました。

令和4年度には、耐用年数を過ぎた各種サーバ等のハードウェアを更新しました。



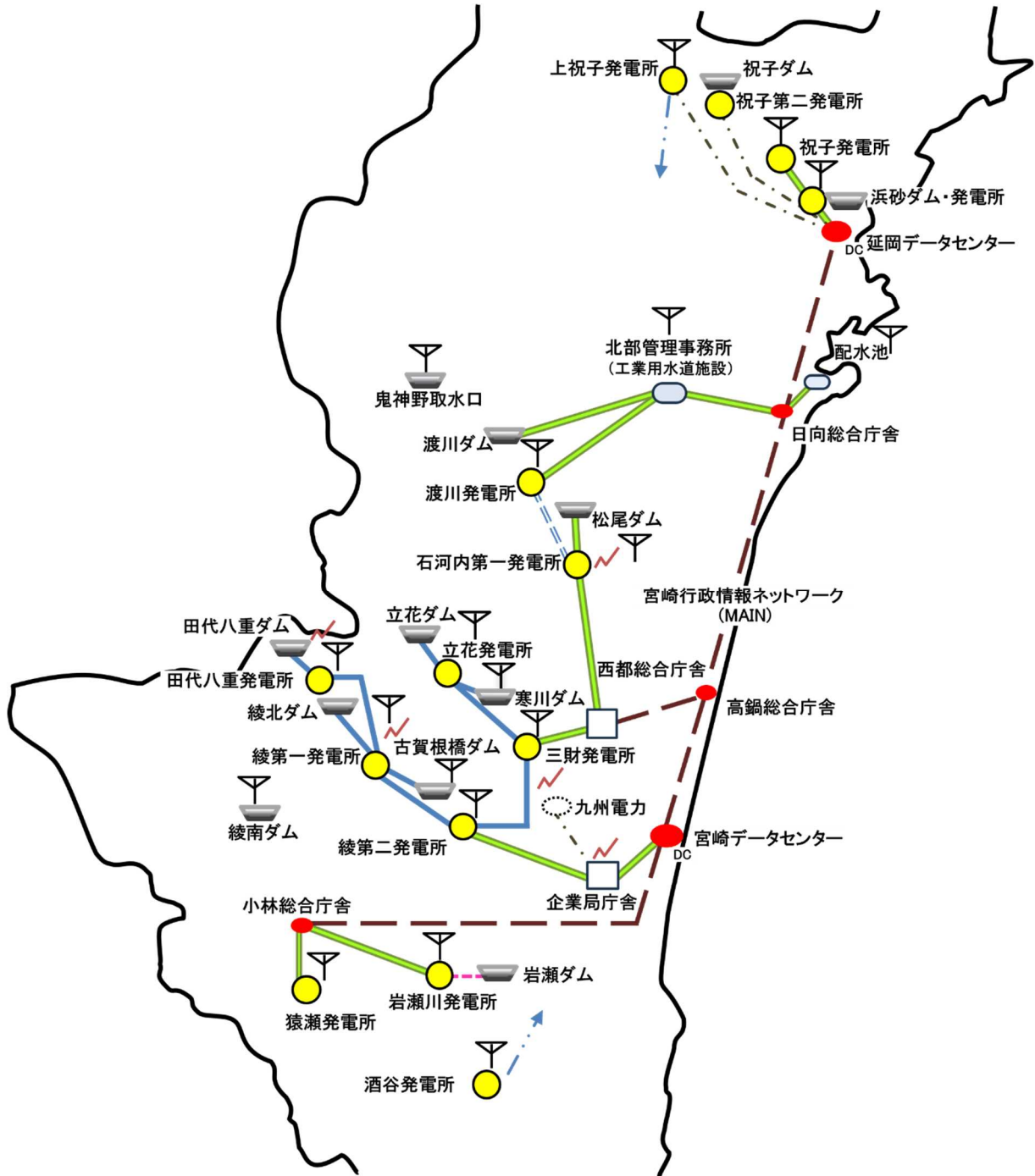
総合制御室

総合監視制御システムの概要



電力保安通信回線概要

発電所等の監視制御やダム水位・雨量などの情報伝送を行うため、企業局庁舎と発電所等を、光ケーブルを中心とした情報通信ネットワークで結んでいます。

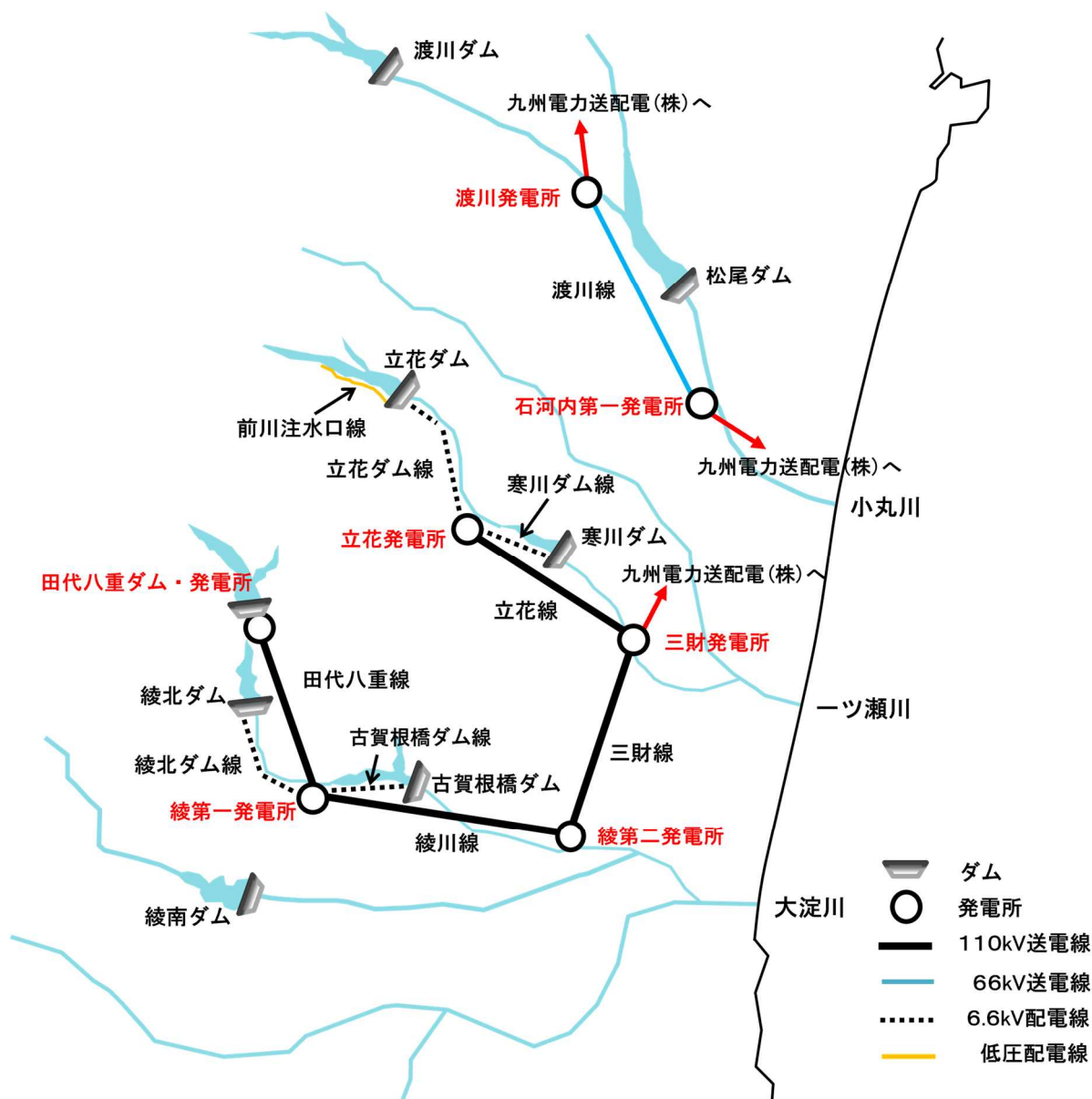


凡例

自営光回線	通信業者のインターネット回線 (庁舎向け)	発電所
宮崎行政情報ネットワーク (MAIN)	データセンター	ダム
通信事業者の光回線	総合庁舎	工業用水道施設
デジタル電力線搬送回線	通信事業者の携帯・衛星回線	移動無線基地局
自営メタル回線	九州電力施設	
NTT専用・私設線		

送配電線路概要

企業局には、九州電力送配電株式会社に電力を供給する5つの送電線と、ダムに電力を供給する4つの配電線があります。送電線は光通信方式及び電力線搬送方式*による通信線路としても活用されています。



送電線名	亘長 (km)	支持物 本数 (基)	区 間	備 考
渡川線	9.47	36	渡川発電所～石河内第一発電所	電力線搬送 2L青相
立花線	5.46	13	三財発電所～立花発電所	光通信
三財線	11.42	37	綾第二発電所～三財発電所	光通信
綾川線	8.81	25	綾第二発電所～綾第一発電所	光通信
田代八重線	8.20	22	綾第一発電所～田代八重発電所	光通信
計	43.36	133		

※P42「用語解説」参照